
所 属 : 国際学部

職・氏名 : 准教授 田浪 亜央江

URL :

研究キーワード : 中東地域研究 アラブ パレスチナ文化

■研究テーマ

① 〈移動〉と〈歓待〉を切り口とした現代パレスチナ文化論の構築

現代パレスチナにおける文化活動の興隆のバックグラウンドをオスマン朝末期から英国委任統治体制の確立期（1910年代後半～20年代半ば）に求め、この時代のパレスチナ人の空間認識や、移動を通じた交流のありようの掘り起こしを行っています。

② 中東におけるシティズンシップ／ナショナリティ：ケーススタディとしてのイスラエル／パレスチナ

混迷する中東情勢を考える手がかりとして、中東地域の植民地支配における「国籍」の創出とは何であったのかが改めて問われる必要があると考えています。将来的にはパレスチナだけでなく他のアラブ諸国におけるマイノリティのシティズンシップをめぐる議論との比較研究も視野に入れ、目下の紛争に対し知の分野から介入できればと考えます。

③ 日本の近代化プロセスの中東史からの再検討

日英同盟によって戦勝国となった日本が英仏に並んで委任統治受任国となったことは、その後の日本の方向性に大きな影響を与えました。このように、中東史のなかで日本の近代を再検討してすることで、中東の状況を日本の問題として捉え、グローバルな世界史のなかで日本を位置づけることにつながると考えます。

■研究テーマの応用例

直接製品やサービスに直接利用できる性格の研究ではありません。また、パレスチナ文化研究は、日本社会や文化との類似性やそれへの応用可能性よりも、まず現地固有の歴史や文脈の理解が必要であると考えます。その上で将来的に、日本の中東への関わりを国際関係に限定せず、社会や文化面にパースペクティブを広げることで、記憶の継承や文化保存などの共通課題における対話、市民も対象に入れた相互理解講座への貢献などが可能であるかと思えます。

■主な著書、発表論文

- ・田浪亜央江『〈不在者〉たちのイスラエル —— 占領文化とパレスチナ』2008年、インパクト出版会
- ・塩尻和子編『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』2016年、明石書店
- ・長沢栄治・栗田禎子編『中東と日本の針路「安保法制」がもたらすもの』2016年、大月書店

■主な特許、芸術作品等

なし。

■想定される連携先

- ・国際支援や多文化教育を行うNPO
- ・文化活動をビジネスとして行う企業（国際映画の配給会社やイベント会社）
- ・クラウドファンディング等で資金獲得をしながら独創的な活動に取り組む任意団体